

お母さんと骨折とカルシウム

埼玉県川口市立安行東小学校二年 鈴木 紫文

「骨が折れちゃうよ！」って、さけんだら
「もう折れてるから！」って、あばれるぼ
くをおさえつけながらお母さんが言つた
オニかと思つた

小学校のうんていから落つこちた

今まで生きてきて、一番いたかつた

先生によばれたお母さんがとんできた
そのままぼくは病院につれていかれた

でも、ちりょうがおわつたら
「ちやんとなおるから大丈夫だよ。」って、
お母さんはせなかをやさしくなしてくれた
ぼくはやつとほつとした

お母さんもやつとえがおになつた
お母さんもドキドキしてこわかつたんだね

レントゲンを見たお医しやさんよりも先に
「骨折ですね。」って、お母さんが言つた

ぼくの右手はきれいにぽつきり折れていた

そのあとはじごく
その日からぼくはカルシウムづけ
お母さんは牛にゅうや小魚、骨にいいもの
をたくさん買つてきた

折れた骨を元の場所にもどすために
お医しやさんがぼくの右手を引つぱつた
うでがちぎれるかと思つた

おかげでぼくの骨は少し早くくつついた
まだゆだんできなきけど
ぼくはもうすぐおるとしんじてる

お母さん、ありがとう

骨折がなおつたら

いっぱいお手つだいしてあげるからね